

令和3年度 全国学力学習状況調査の結果

京都市立京都京北小中学校 校長 松本 和文

5月27日に、本校6年生・9年生を対象に実施された「全国学力学習状況調査」について、結果がまとまりましたのでお知らせいたします。本調査では、国語・算数(数学)の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力の関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

前期課程 6年

国語科

全ての学習内容の正答率が、いずれも全国平均を上回り、全体的によくできています。特に、「話すこと・聞くこと」では、普段から相手の話をよく聞き、自分の考えをしっかりと発表できている、また、しようとしていることが正答率の高さとなって表れています。ただ、「読むこと」の問題で「目的を意識して、情報を見つけたり要約したこと」の正答率が低くなっています。国語の学習を中心に、文章の構成をとらえる力を更に身につけていきたいと思います。

算数科

全体的に全国平均を上回り、よくできていますが、基礎的な問題も含めて以下の分野で少し気になる結果となりました。

図形 直角三角形・二等辺三角形・平行四辺形などの面積を求める問題

測定 直角三角形を組み合わせた図形の面積について比べる問題

学校では、正答率の低かった問題を中心に反復練習を進めていきます。また、子どもたちには、苦手な問題の復習など家庭学習をするように声をかけていきたいと思います。

後期課程 9年

国語科

全ての学習内容の正答率が、いずれも全国平均を上回り、全体的によくできています。特に、「書くこと・書く能力」では、高い正答率となりました。文章で答える問題では、無解答が非常に少なく、粘り強く問題に取り組んだ成果が表れたと考えています。

今後も生徒の「思考力・判断力・表現力」のさらなる向上をめざし、複数の資料が提示された説明文や筆者の考えが含まれた意見文などを読みとる指導を継続していきたいと思います。

数学科

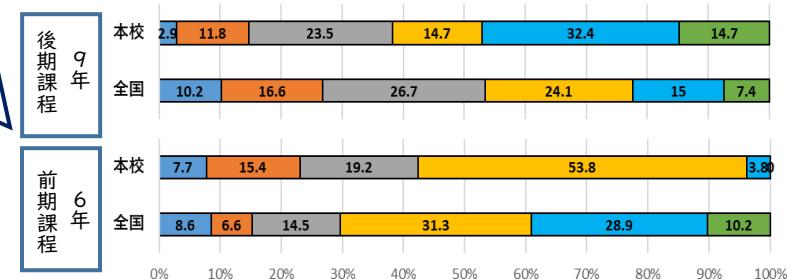
全ての学習内容の正答率が、いずれも全国平均を上回り、全体的によくできています。特に、「図形領域」では、かなり高い正答率となりました。なかでも移動する2つの三角形の性質をとらえて表現するといった記述式の問題の正答率が高かったです。しかし問題文を簡単な方程式で表すといった基礎的な問題でつまずいている生徒も見られました。今後も基本問題の反復練習を授業で行い、数学への関心・意欲がさらに高まるよう指導していきたいと思います。

生徒質問紙調査から

Q. 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

- 1. 4時間以上
- 2. 3時間以上、4時間より少ない
- 3. 2時間以上、3時間より少ない
- 4. 1時間以上、2時間より少ない
- 5. 1時間より少ない
- 6. 全くしない

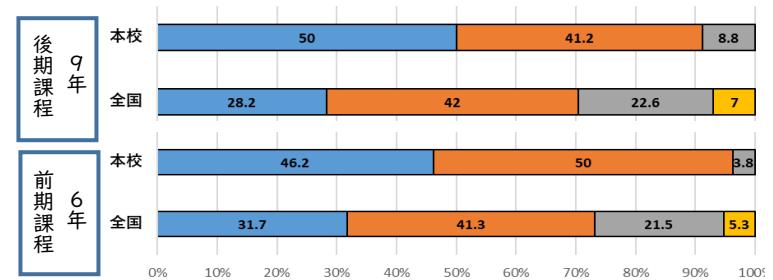
土・日曜の家庭での学習時間が、前後期課程とも全国平均をやや下回っていることが分かりました。学校からの宿題だけではなく、自主学習も積極的に行ってほしいと思います。



Q. 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

- 1. 当てはまる
- 2. どちらかといえば、当てはまる
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
- 4. 当てはまらない

総合的な学習の時間について、自ら主体的に学習活動に取り組んでいる生徒が前後期課程の両生徒において、全国平均より大きく上回っています。今後も、本校の学校教育目標「地域創生力を伸ばす」ことへ生かしていきたいと思います。



【保護者の皆様へ】

全国学力学習状況調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの良さや可能性を更に伸ばしたり、課題を解決するのに活用しています。結果が学力のすべてを表しているのではなく、順位を競うものではありません。学力は、学校・家庭・地域との連携のもとで定着していくものであり、日々の生活習慣や学習習慣が基盤となります。今回の結果を踏まえ、本校では、生徒が主体的に学習をしたり発表したりするような授業づくりを続けていきたいと思います。ご家庭や地域でも、引き続き子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をよろしくお願いいたします。

